

事業名	道徳教育の充実のための教員養成学部等との連携研究事業	
主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 初等中等教育局教育課程課(課長: 大槻達也)	
上位施策目標	施策目標 2 - 2 豊かな心の育成と児童生徒の問題行動等への適切な対応 達成目標 2 - 2 - 1 幼稚園から高等学校までの全ての学校種において、体験活動を生かした道徳教育や地域人材の積極的活用など特色ある充実した道徳教育を実施する。	
事業の概要	都道府県・指定都市教育委員会と、大学の教員養成学部等との連携により、子どもたちや学校の実態に応じた道徳教育の効果的な指導方法の開発、教員研修や教員養成段階等の道徳教育のための連携プログラムの作成等、道徳教育の充実のための課題に焦点を当てた研究を行う。 (1) 連携研究地域等の指定 10件(地域・大学等) (2) 連携研究グループによる研究例 学校や児童生徒の現状と課題の分析 効果的な指導方法や教材等の開発 教員研修の充実のための連携・協力 教員養成段階等の道徳教育のための連携カリキュラムの充実 等	
予算額及び事業開始年度	平成16年度概算要求額: 30百万円 事業開始年度: 平成16年度	
必要性	将来の我が国を担う子どもたちに、命を大切にできる心や他人を思いやる心、規範意識等の道徳性の育成を図ることは、極めて重要なことであり、喫緊に取り組むべき社会的要請となっている。このため、学校教育においては、家庭や地域、関係機関等と連携しつつ、道徳教育の一層の充実を図ることが必要不可欠である。 また、平成14年度実績評価においても、達成目標2-2-1の今後の課題として、「道徳教育については、引き続き、学校や教育委員会の創意工夫を生かした道徳教育、体験活動を生かした道徳教育や、地域人材の積極的活用等による特色ある道徳教育に取り組む必要がある。」とされているところである。	
効率性	「道徳教育の充実のための教員養成学部等との連携研究事業」は、道徳教育の充実の成否は教員によるところが大きいことから、都道府県・指定都市教育委員会と大学の教員養成学部等とが、課題意識を共有し、その改善のため、連携・協力して研究を実施するよう、効率性に配慮した事業形態となっている。	
有効性	達成効果の把握の仕方(検証の手順)	都道府県・指定都市教育委員会と大学の教員養成学部等からなる連携研究チームが、研究目標を立て、目標に照らし評価を行う。それらの研究成果を集積する。 <連携研究チームによる研究例> 学校や児童生徒の現状と課題の分析 効果的な指導方法や教材等の開発 教員研修のための連携・協力 教員養成段階等の道徳教育のための連携カリキュラムの充実 等
	得ようとする効果の達成見込みの判断根拠(判断基準)	国においては、これまで各学校における道徳教育の充実のため、道徳の内容をわかりやすく表した児童生徒用の教材である「心のノート」の作成・配布等の取組を進めてきたところであり、本事業により、新たに都道府県・指定都市教育委員会と大学の教員養成学部等とが、課題意識を共有し、その改善のため、連携・協力して研究を実施することにより、施策の一層の充実と判断できる。
得ようとする効果及び達成年度	学校や児童生徒の現状と課題の分析や効果的な指導方法や教材等の開発などの研究成果を上げ、各学校における道徳教育を充実する。	達成年度
		平成18年度末

# 道徳教育の充実のための教員養成学部等との連携研究事業

平成16年度要求額(案) 30百万円(新規)

## 教育委員会

大学の教員養成学部等との連携・協力による研究により、学校の取組を支援

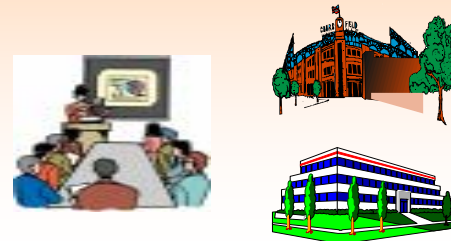


連携  
協力

情報提供  
ニーズの把握

## 大学の教員養成学部等

教育委員会・学校との連携・協力により、学校の課題を解決し道徳教育の充実改善を進めるための多様な手立ての研究



### < 連携協力による取組例 >

学校や児童生徒の現状と課題の分析による効果的な指導方法等の開発  
教員研修の連携・協力  
教員養成段階等の道徳教育のための連携プログラム 等

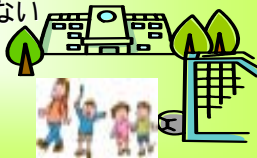
指導・助言・援助

優れた実践例の報告

## 学 校

### < 学校の課題、悩みの例 >

道徳性をはぐくむ効果的な指導方法が分からない  
子どもの発達段階に応じた教材研究が不十分  
子どもの道徳性の実態把握の方法が分からない  
道徳教育の取組方に対する教員の共通理解が不十分 等



連携  
協力

情報提供  
ニーズの把握

学校における道徳教育の充実